

（3）過去に発生した主な地震（注3）

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（図3-1の領域c）では、M6.0以上の地震がしばしば発生しており、死者1,000人以上となるような大きな被害をもたらす地震が多く発生している（図3-1、図3-2）。

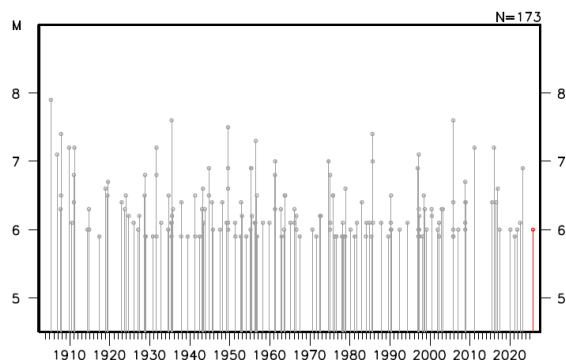
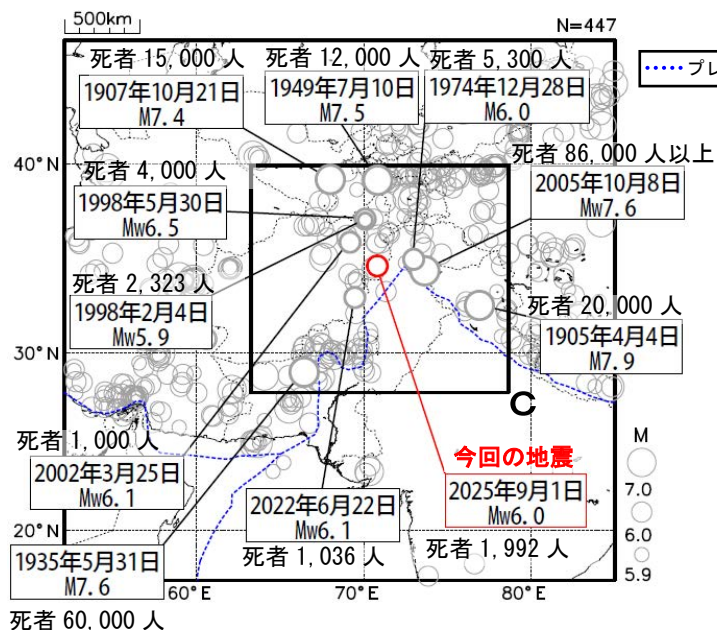


図3-1 震央分布図（1904年1月1日～2025年9月30日、深さ0～100km、 $M \geq 5.9$ ）
2025年9月の地震を赤く表示。
吹き出しは領域c内で被害が死者1,000人以上の地震。

図3-2 図3-1の領域c内のM-T図

（注3）震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022年以降は米国地質調査所(USGS)による(2025年10月1日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震のMwはGlobal CMTによる。今回の地震と2022年6月22日の地震の被害は、OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所、2025年10月1日現在)、2005年10月8日の地震の被害は理科年表、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird(2003)*1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.